

## contents

|                       |   |
|-----------------------|---|
| ご挨拶                   | 1 |
| 令和3年度農業研修生海外派遣事業      | 2 |
| 受入事業 NEXT STAGE へ     | 3 |
| 研修生からの便り              | 4 |
| SDGs (エス・ディー・ジーズ) って? | 5 |
| 未来の畜産女子育成プロジェクト       | 6 |
| 協会の動き                 | 7 |
| 協会の行事                 | 8 |



令和2年度アメリカコース研修生の渡航。6月25日

ニューファーマーズ 249 号から、オンラインでもご覧いただけます。  
本会ホームページに掲載するほか、Email でも配信します。

ニューファーマーズ No.250 |  
2021 年 (令和 3 年) 7 月 (年 2 回 1 月、7 月発行)  
ホームページ: <https://www.jaec.org>  
フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会  
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 5-27-14 日研アラインビル 8 階  
TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)  
03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)  
FAX: 03-5703-0255

## ご挨拶とご支援・ご協力 のお願いについて

常務理事 坂元良二



昨年から続くコロナ禍により、今年も本会の総会は書面表決の形になりました。

今期の役員体制は、理事 1 名が退任され、新しい理事 2 名が選任されましたが、会長に野中和雄、副会長に五月女昌巳、そして私が常務理事として留任することになり、ほぼ前期同様の体制で協会を運営させていただきます。今期も役割・責任を精一杯果たしていきますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、全国 OB・OG 組織である「国際農友会」では国会議員に対するロビー活動・政策提言を続けて頂きました。特に海外研修参加者への助成金要請に注力していましたが、熱心かつ粘り強い働きかけのお陰で、今年度より念願の助成金制度が創設されました。

この助成金では、研修経費の半額 (上限は 60 万円) が研修生一人一人に対して支払われます。これによって若者にとって大きな負担となっていた経費の問題が少しでも解消されることを切に願っています。

この助成金制度については、農林水産省から都道府県農政担当課に積極活用を働きかけていただいておりますが、各県から少なくとも 1 名の青年が海外研修に応募し、助成金を活用すれば、今後もしっかり継続実施することに繋がります。

募集が始まって 3 か月程経ちますが、コロナ禍の影響か

ら海外農業研修への参加意志を持つ若者が集まり難い状況です。

このままだと米国・豪州のグループによる研修事業 (\*) の実施が立ち行かない事態にもなりかねません。皆様におかれては、周辺の農業関係者や若者に海外農業研修を周知していただく際、合わせて助成金制度をご紹介します。一人でも多く応募いただけるようご協力ください。参加者が安心して参加できる研修プログラムの実施に向けて協会職員一同団結して臨んでおります。

全国の OB・OG の皆様と共に海外農業研修の伝統と歴史を繋ぐべく、研修参加者の発掘のご協力をお願いしたいと思います。

最後に、もう一つお願いがございます。

コロナ影響下、昨年度は協会の運営資金として、日本政策金融公庫から 4,000 万円の融資を受けました。5 年間据え置き 10 年間で返済という特別な資金です。今年度から事業の正常化が図られると計画しておりましたが、現状として受入事業が全く実施できていない状況です。協会だけがコロナ禍の影響を受けている訳でないことは重々承知しておりますが、昨年度と同様、皆様のご寄付・賛助金のご協力を心よりお願い申し上げます。

将来の日本のためには農業分野の人材の育成は今後益々重要になりますし、国益を守るためにも、海外派遣事業にはその役割があると思います。また、海外農業研修経験者が果たす、アジアやその他の発展途上国における農業分野の国際協力・人材育成事業の継続実施も同様に重要だと考えております。

どうか、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

\* 現在、欧州派遣事業は制度変更され、研修希望者個々の経験や背景に合わせて対応するプログラムになっています。

# 令和3年度海外農業研修事業を盛り上げていきましょう！



オランダ（コトレヒト）の運河でピクニック

早速ですが、農業教育高度化事業の利用によって令和3年度研修生は、研修にかかる経費の半分（上限60万円まで）を助成してもらうことができるようになりました。

また、昨年度より、一般社団法人Jミルクの酪農生産基盤強化総合対策事業（酪農ステップアップ支援）によって、海外農業研修で酪農を学ぶ研修生は、将来酪農業又は酪農ヘルパーに就業し3年以上従事する強い意志を示している場合、最大1年間で120万円が支援されることとなりました。

さらに、既に5年来バイエルによる奨学生に対する資金支援（5名20万円）も継続していただいています。

海外農業研修に参加する費用はおおむね100万円以上かかり、この負担が大きいと参加を断念する若者が多くいます。せっかく海外農業研修参加の素晴らしいチャンスがあるのに、資金面であきらめざるを得ないというのはとても残念です。このように海外農業研

修を応援する体制が整ってきたことは、本当にありがたいことです。

しかし、コロナ禍が及ぼす影響は甚大です。今年度の募集に際しては、海外へ行くことが心配だという声が多数あります。おそらくOB・OGの皆さんも同様のご懸念をお持ちではないでしょうか。コロナの状況が脳裏をかすめ、知人への紹介、農業大学校や大学等で海外農業研修の紹介をする際にも、トーンダウンしてしまうところだと思います。

協会職員は、皆さんの疑問や不安など悩みにも寄り添って、海外農業研修へ繋がるように、例年よりも頻繁に個別対応の連絡を取るようになっております。また、オンラインでのPR活動、事業説明を充実させていますので、ぜひご利用いただくようご紹介ください。

## 令和3年度農業研修生海外派遣事業

- 募集期間 2021年4月1日～10月4日
- プレエントリー 9月30日まで
- 選考会（アメリカ・オーストラリア）  
10月15日、16日のいずれか（オンライン）
- 欧州各は随時募集

### 【お問合せ】

電話 03-5703-0252  
Eメール [agtre@jaec.org](mailto:agtre@jaec.org)



JAECのインスタグラムより



## 令和 3 年度アジア農業青年人材育成事業

## 時代と共に、NEXT STAGE へ

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、タイ研修生の受入を除き、殆どの事業が中止及び延期を余儀なくされました。

暗く長いトンネルの中、新たな事業を企画立案し、今年から新たな取り組みを始めます。

ポストコロナの時代を見据え、今まで以上に社会から必要とされる事業を皆様と共に育んでいきたいと思っておりますので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## いままで（～ 2020 年）

**アジア農業青年人材育成事業（通称：アセアン研修生受入事業）**

タイ、インドネシア、フィリピンから毎年約 60 名の研修生を受け入れ

**海外農村開発支援事業（JICA 草の根技術協力事業）**

フィリピンにおいて、環境保全型農業の普及及び農産物の流通改善指導

**アセアン等農業人材育成支援事業（通称：長野フィリピン技能実習生受入事業）**

フィリピンベンゲット州から技能実習生を毎年 40 ～ 50 名を受け入れ

## NEXT STAGE

## これから（2021 年～）

**アジア農業青年人材育成事業**

アセアン研修生の受入に加え、現地の農業発展に寄与すべく以下の事業を実施します。

- ① **研修生 OB のデータベースの構築**  
（現地で日系食関連企業とのビジネスマッチングの機会を提供）
- ② **フォローアップ技術指導の実施**  
（研修生 OB の営農改善の為、受入農家を中心とした技術指導員を現地に派遣）
- ③ **農産物流通改善セミナーの開催**  
（農産物の鮮度維持・品質向上の為、農産物流通の専門家を現地に派遣）

**海外農村開発支援事業（日本 NGO 連携無償資金協力事業）**

JICA 草の根技術協力事業の後継事業として外務省の日本 NGO 連携無償資金協力事業により、フィリピン農業省と連携して、環境保全型農業の普及とフードバリューチェーン構築に取り組みます。

産地から消費地までを、コールドチェーンで結びます。

**アセアン等農業人材育成支援事業**

- ① 長野フィリピンは、これまでの技能実習生の受入を継続
- ② タイからも技能実習生の受入を開始。特定技能制度を利用して、アセアン農業人材の高度農業技能習得事業を開始、より高度な農業技能の習得を目指す外国人労働者を受け入れることで農家の労働力不足の問題にも貢献することを目指します。

新規事業を含めアセアン研修生、技能実習生の受入等に興味のある方は、  
受入業務課 電話 03-5703-0254 Eメール ukeire@jaec.org  
までお問い合わせください。

# 研修生からの 便り



## “ スイスで経験したこと

森本 悠太（高知県出身） 配属農場 Fam. Tännler

今、僕がスイスに来て2か月が経過しました。僕は、チューリッヒから西へ約50kmのところにあるグレッツェンバッハのLehenhofという農場で養豚の勉強をしています。日本では、養豚の経験をしたことがなくスイスで初めて経験しています。2か月養豚をして分かったのは、産後の母豚はイライラして危険な豚がたまにいることや、豚の体調管理は見た目・食欲・糞・体温で確認していることや、子豚がすごく可愛いことです。農場の近くに家があり、そこには、シェフの家族（奥さんは日本人、子どもが2人）とルーマニア人とウクライナ人と日本人の僕がいます。スイスドイツ語だけでなく他の言語を聞くことができ、混乱はしますが理解できると楽しいです。養豚の仕事は、シェフ・ルーマニア人・僕の3人で作業をしています。

スイスでは、4月中旬からロックダウンが徐々に解除されていて、旅行に行ったり、レストランで食事ができるようになってきています。休みの日は、旅行に行かなければならないとシェフがスイスのおすすめの場所を教えてください。僕が旅行し

たのは、ベルン・ルツェルン・アーラウ・シャフハウゼンです。他には、コロナが収まってきた5月下旬からですが、金曜日は地域の人と一緒にワークアウトやビーチバレーをしました。ビーチバレーの後は、みんなでビールを飲み、パンとソーセージを食べながら会話をしていました。地域の人とは、流暢にスイスドイツ語を話すので聞き取るのが難しかったですが、農場以外の人と関わることは、とても良い経験になります。これからも毎週金曜日は、いろいろなスポーツをすると聞いたので参加する予定です。



農場からの景色

残りの期間も、養豚の勉強はもちろん、スイスでしか経験できないことや、スイスの大自然を見に旅行に行って、スイスを満喫し、素晴らしい研修にしたいと思います。



豚、かわいい



みんなで食卓を囲んで

# SDGs(エス・ディー・ジョーズ)って？

海外農村開発支援事業専属職員 佐藤利春

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



カラフルな目を引くこのマーク、どこかで見かけたことはありませんか？

このマークを背広の胸元に付けたビジネスマンを見かけた方もいらっしゃることでしょ。このマークの認知は議員、銀行員、会社員だけでなく一般の方にも広がってきました。このマークは **SDGs (エスディージョーズ)** と呼びます。

これは、2015 年に国連が定めた「**持続可能な開発目標**」というもので、これから 2030 年までに世界で達成すべき 17 個の目標をカラフルに表したものです。

SDGs は、地球に負荷をかけ続け、限界を迎えている現在の人間の活動を見直し、限られた人だけでなく、地球上に暮らす全ての人たちが同時に取り組むべき課題について環境面、社会面、経済面から目標を定め、**持続可能で誰一人取り残さない**人間社会を目指すものです。

例えば、私やあなたが日常の仕事が多忙で時間が取れないことがあるように、地球もまた「時間がない」のです。しかも今回は、先送りにしていた「地球環境の見直し・保護」が限界に達し、2030 年までに具体的な対策をしないと二度と修正が効かないことが明らかなのです。

SDGs の目標には 17 個あり、例えば 15 番「陸の豊かさを守ろう」は、14 番の目標である「海の豊かさを守ろう」に続き設定されているのですが、わかりやすく言えば、①人間社会の経済を優先するあまり環境負荷をかけてはいないか、②土地の多様性や豊かさを犠牲にしてはいないかを問う目標でもあるのです。

人間の社会活動や経済活動は、環境面が整わない限り持続不可能となります。

たとえば、農作業で使った資材は安価でも土地や環境に負荷をかけていないでしょうか？消費者の手に渡り、経済が循環したとしても、実はプラごみを増やしていないでしょう

か？

個人の生活面でも無意識に値段だけを購入判断としていないでしょうか？

その原材料の調達先で児童労働や伐採による環境破壊がなく、さらには廃棄の過程で環境負荷が少ない商品を選択して消費行動を見直す『エシカル（倫理的な・道徳的な）消費』という言葉がありますが、SDGs をとおして生活や行動を見直す**エシカル消費者**がここ日本でも世界でもどんどん増えています。これは、地球環境＞人間社会＞経済という事実と関係性が理解できれば見えることなのですが、我々は経済＞人間社会＞地球環境という順に思考しがちです。その結果、地球は修正をしようとしてコロナ禍が生まれたのかもしれませんが、とすれば、コロナ禍から立ち直る今こそ、我々の思考も修正が必要だと言えるでしょう。

我々農業者の足元の大地は地球です。ここに立ち、大地からいただいたもので暮らしを支えている農業こそ、SDGs と親和性が高いと言えます。

企業人も SDGs パッチを胸につけるだけではなく、実際の行動に変化を起こし、地球の未来に責任と自覚を持って行動していただきたいものです。

そしてあなたも、今日からより良い世の中を世界の人々といっしょに作ることを初めてみませんか？これを読んでいるあなたにとって、今日がそのきっかけとなれば嬉しいです。





# 令和3年度の未来の畜産女子育成プロジェクト オンラインでも最高の研修を！



JRA 日本中央競馬会の畜産振興事業により平成 30 年度、平成 31 年度と実施した畜産を目指す女子高校生のための当プロジェクトですが、昨年令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。しかし、今年度は舞台をニュージーランドからデンマークへと移し実施しています。

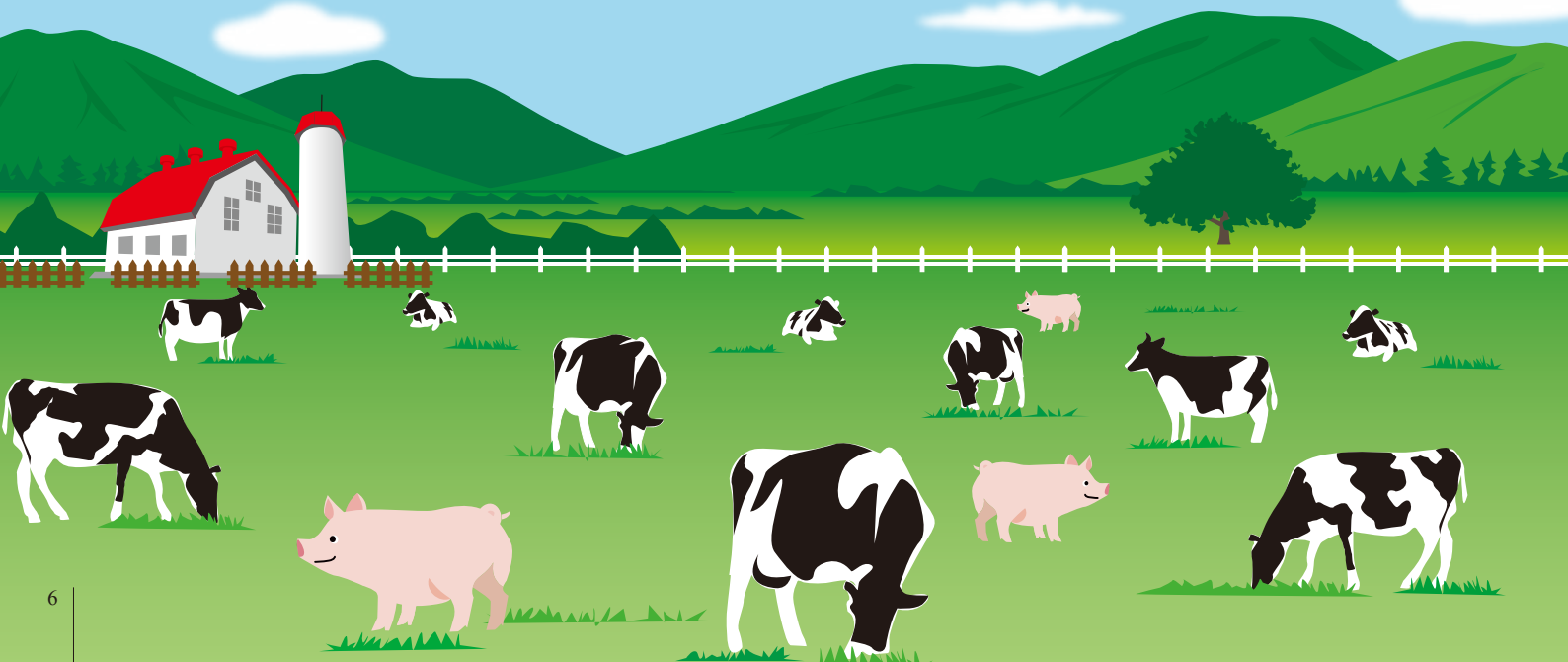
コロナの影響と国際状況が判然としない中、高校生をデンマークへ連れていくことが困難であり、どのようにプロジェクトを実施するべきか頭を悩ませましたが、リモートワークが急速に普及した背景もあり、オンラインによるデンマーク畜産授業、農家訪問、インタビュー、そして VR（バーチャルリアリティ）を駆使することとしました。これにより、デンマーク畜産業を充実して学べる環境を作ろうと考えています。

現地研修のコーディネートは、デンマーク中心部のヒュン島の都市オーデンセにある Dalum 農業学校に依頼しました。オーデンセは童話作家アンデルセンの生

誕地としても有名です。

高校生たちへの指導とアドバイスを務めるメンターとして、酪農家の藤田春恵さん（岩手 / 平成 14 年 米 1）、養豚家の野上遥さん（栃木 / 平成 24 年 ドイツ）に加わってもらいました。全国から 19 名の生徒が選出され、オンラインのプログラムに参加しています。今後 8 月にデンマークの畜産を 10 日間かけて学び、9 月 22 日には、オンラインでの研修成果報告会を行いますので、是非ご期待ください。そして、秋から冬にかけて日本全国に畜産業の魅力をお届けできるよう、畜産アンバサダー活動の機会も設ける予定です。全国の国際化対応営農研究会にも彼女たちが参加して畜産の魅力について発表する予定ですので、どうぞ期待してください。

頑張れ、畜産アンバサダー！



## 協会の動き

## 賛助会員・寄付のお願い

国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

## ●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会の各事業を支えていただいております。希望される方は、本会までご連絡ください。

## ●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることが定められています。

賛助会費及び寄付金は、優遇税制（税額控除、所得控除等）の対象となりますので、その証明書と領収証を翌年2月中旬までに送付します。確定申告にて税額控除を受けることが出来ます。

また、公益法人への寄付に関する詳細は以下のサイトをご覧ください。

公益法人 information

[https://www.koeki-info.go.jp/pictis\\_portal/other/zeisei.html](https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html)



賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら ▶ TEL.03-5703-0251

令和2年11月30日以降(NF249にて紹介後)に御寄付頂いたのは方々は以下の通りです。(令和3年6月11日現在)

北海道/高田 浩 乾 雅文 岩手県/伊藤 善光 秋田県/阿部 秀夫 高橋 尚也 茨城県/木名瀬 幸吉 埼玉県/正木 弘道  
東京都/バイエルクロップサイエンス株式会社 株式会社ハッシャダイファクトリー 新潟県/本間 隆夫 長野県/  
宮崎 光弘 横井 美智子 石川県/藤村 幸司 愛知県/寺部 浩章 三重県/斉藤 孝司 奈良県/水田 恵一郎 岡山県/  
立間 政史 愛媛県/檜垣 真城 高知県/加藤 家廣 熊本県/一瀬 俊郎 大分県/森永 大直 宮崎県/大平落 泰憲  
鹿児島県/鶴川 直子 (順不同、敬称略)

また同じく、今回新たに賛助会員へ入会された方々です。

東京都/岩田 弦 長野県/横森 利明 菊池 辰夫 菊池 隆明 井澤 亮 栗田 米男 嶋崎 兵治 風間 久治 新海 昇 原田 雅明  
菊池 千春 中道 秀人 高見澤 良夫 吉川 達郎 香川県/広野 正則 (順不同、敬称略)

## 令和3年度通常総会

令和3年度通常総会は新型コロナウイルス感染症予防対策により書面表決により実施され、下記の議案が原案通り承認されました。決算書類等は協会のHPで閲覧できます。

- 第1号議案 令和2年度事業報告及び収支計算書類の承認
- 第2号議案 次期役員の選任
- 第3号議案 国際農業交流事業推進基金の運用等
- 第4号議案 議長、及び議事録署名人

## 執行役員の選任

通常総会終了翌日にWeb会議方式で臨時理事会を開催し、新役員による執行役員の互選を行いました。

代表理事：野中 和雄（会長）  
執行理事：五月女 昌巳（副会長）  
執行理事：坂元 良二（常務理事）

また、特別顧問を引き続き石井 清氏にお願いすることとなりました。

## 役員の改選

本年度通常総会を以って任期満了となった本会役員の改選が同通常総会において行われ、新たな役員が決定しました。(敬称略、順不同)

理事：野中 和雄、五月女 昌巳、坂元 良二、生部 誠治、  
岩元 明久、紺野 和成、五嶋 義行、鈴木 俊、檜垣 真城、  
藤森 英明、星 智宏、三国 貢、三篠 久夫、村上 秀徳、  
山田 豊、柚木 茂夫

監事：監事の任期は4年であり、今回、改選は行われませんでした。

甲斐毅理事が退任されました。大変お世話になりました。

## 基金管理運営委員会

令和3年5月27日に基金管理運営委員会がWeb会議方式で開催され、国際農業交流事業推進基金の運用報告及び今後の方針等について話し合われました。また、任期満了により、下記の方が新委員に任命されました。

(敬称略、順不同、任期2年)

委員：星 智宏、藤森 英明、山田 豊、栗田 賢、五嶋 義行、  
中村 隆宣、井上 源一、一箭 拓朗

## 協会人事

｜採用｜～ようしく願いいたします～

令和3年3月31日 佐藤 利春（海外農村開発支援事業専属職員）  
令和3年4月1日 佐々木 亮輔（業務部派遣業務課職員）  
令和3年5月13日 望月 翔太（業務部派遣業務課職員）  
令和3年5月17日 吉田 誠也（海外農村開発支援事業専属職員）  
令和3年5月17日 窪田 悦子（素敵な経営者たちII編纂専属職員）

｜退職｜～お疲れ様でした～

令和3年3月31日 富永 和弥（業務部派遣業務課）  
令和3年3月31日 窪田 悦子（業務部活動支援課）  
令和3年3月31日 市原 幸江（業務部受入業務課員）

## 協会の行事

### ブロック別 国際化対応営農研究会 (国際化対応営農研究事業)

#### <北海道・東北ブロック>

開催地：岩手県盛岡市「アートホテル盛岡」  
開催時期：2022年1月26日（水）  
※翌1月27日、組織会長及び事業担当者会議開催（於：同ホテル）  
問合せ先：岩手県国際農友会  
一般社団法人岩手県農業会議内  
TEL：019-626-8545

#### <関東甲信静越ブロック>

開催場所：長野県長野市「JA 長野県ビル」  
開催時期：2022年1月28日（金）  
※翌1月29日、組織会長及び事業担当者会議開催（於：同JAビル）  
問合せ先：長野県国際農友会  
長野県農業会議内  
TEL：026-217-0291

#### <東海・近畿・北陸3県ブロック>

開催地：奈良県  
開催時期：2022年2月4日（予定）  
問合せ先：奈良県国際農業者交流協会  
奈良県農業水産振興課内  
TEL 0742-27-7442

#### <中国・四国ブロック>

開催地：鳥取県  
開催時期：未定  
問合せ先：鳥取県国際農業者交流協会  
会長：川本正一郎様方

#### <九州ブロック>

開催地：大分県  
開催時期：未定  
問合せ先：大分県国際農友会  
大分県新規就業・経営体支援課内

## 事業関係者の動向

訃報 謹んでご冥福をお祈りいたします。



#### 《堀内久貴元常務理事のご逝去》

農業研修生派米研修事業2年制度研修生の第2回生OBであり、社団法人農業研修生派米協会、そして、公益社団法人国際農業者交流協会に職員として長年勤務された後、常務理事を務められた堀内久貴さんが、令和3年2月26日に急性硬膜下血腫のために亡くなりました。享年79歳でした。コロナ禍の中、葬儀はご家族のみで営まれ、参列できなかった多くの方からお悔やみの言葉が寄せられたそうです。協会、そして協会が運営するすべての事業に対する長年のご尽力に深く感謝しますとともに謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 編集後記

協会の事務所は、コロナ感染対策で年中窓が開けっぱなしになっています。8階のビルを吹き抜ける蒲田の四季折々の風に、毎日都会の喧騒が溶け込んでいます。オンラインで会議をするとカラスや救急車、5時の時報が割り込んでいますが、なにとぞご容赦ください。



**Hakusan Holdings** ハクサンホールディングス株式会社

海外研修を受けた皆さん、  
私たちと一緒に働いてみませんか。

当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。詳細は下記まで

〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776  
E-mail: info@hakusan1.co.jp https://hakusan1.co.jp/

**AIG損害保険株式会社**



東京法人営業統括部  
東京コーポレートキャリアエージェント営業部  
営業1課 担当：室田

〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル 17F  
TEL：03-5637-0721 FAX：03-3622-2040



## Vol.24 contents



|                      |     |
|----------------------|-----|
| ご挨拶.....             | 1   |
| 各ブロックからの報告 .....     | 2～4 |
| 天地人.....             | 4   |
| 平成に生まれた COWBOY ..... | 5   |
| 勇気ある二人の友.....        | 6   |
| 活動報告.....            | 7   |
| 会員のひろば.....          | 8   |



令和2年度第4回通常理事会より。オンラインにもだいふ慣れてきたか？

## 敬天愛人

国際農友会 会長

星智宏 (宮城 / S58米2)



コロナ渦の中での生活も慣れてきた感じの昨今ですが、すべての生活において、不便を強いられている事は否めません。

緊急事態宣言の解除後の社会情勢やアフターコロナ、ウィズコロナと言われる中で農産物の需要の変化には注視する必要があると思われる。また、新型コロナウイルスによる各国の輸出規制を見ると、国内自給率の問題も無視出来ません。行政に期待することは、国内農業者の減少や国外からの人材に頼る国内農業の生産体系の見直しのことと言えるかも知れません。

ワクチン接種においてもなかなか進んでないように思えます。日本国内では2月から医療従事者を対象に、アメリカの製薬会社のファイザーなどが開発したワクチンの先行接種や優先接種が行われています。4月からは65歳以上の高齢者を対象にした優先接種も進められています。1回目の接種から3～4週間あけて2回目接種されます。最近、接種についての意向調査が市町村から郵送で来ました。必要な部分は記載して返送しましたが、順番が回ってくるのは夏以降かと思われます。周りには既にワクチン注射を終えた方もいますが、話を聞くと、腕が上がらないとか微熱が続いた、腕に痛みが残ったとかいろいろんな情報が入ってきます。本当に大丈夫なのかと不安を払拭出来ないのも現実です。

気温も上がってくるとマスクの着用もなかなか、微妙な感じになってきます。どこかの店に行くにもマスク着用のサインボードがありますね。外食の時もマスク着用ですからね！本当に閉口します。こんな状態がいつ迄続くのか、今後どうなるのか？まだまだ不安があります。このような中で新たな日本人農業研修生を発掘するのは至難の業かもしれませんが、コロナ以前から研修生の減少傾向にあり、厳しい状況でもあります。日本の農村地帯の復興も兼ねて研修生の発掘を各県組織にお願いしたいと思います。

新たな制度資金の活用も踏まえ、コロナ禍ではありますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 女性理事誕生

国際農友会 副会長

檜垣真城 (愛媛 / H3デンマーク)



国際農友会 は海外農業研修を終えたOB・OGで構成された組織ですが、歴史の中で、未

だかつて女性の理事はおりませんでした。一方で農水省の海外研修生支援の予算交渉相手は、優秀な女性官僚ばかりでした。

現在、どの社会部門においても女性の活躍が伝えられている中で、私たちのグローバルな経験を持つ組織にその存在が無いことを非常に残念に思う声が上がってきておりました。

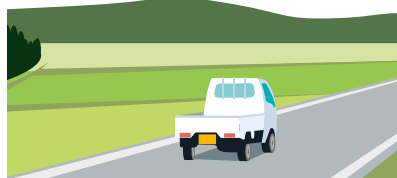
そうしたなかで遂に、全国幹理事で初の女性理事が、2名選任されました。山口県国際農業交流協会会長 木村智子さんと、岩手県国際農友会副会長 藤田春恵さんです。お二人とも、母親であり営農従事者であり多忙ではありますが、快く引き受けていただきました。

待望の女性理事が誕生した事で、新たな角度から意見を頂き、より一層の組織活性化につなげていけると思っております。

コロナ後の世界に、新しい風が吹くことをワクワクして待ち望んでおります。

# 一般社団法人福島県国際農友会の組織改革への取組

(一社) 福島県国際農友会  
会長 藤田 良昭



わが農友会は、農業者の国際的な視野と感覚を身に付けていると共に、若い世代の後継者の育成をめざし、毎年海外派遣研修事業を行ってまいりました。その成果が大きく実を結び、県の農業発展のための大きな貢献につながっている組織であります。

しかし近年、時代の流れもあり、考え方や志向の違いにより組織離れが目立つようになり、それが支部活動の停滞につながってまいりました。この状況を打開するための施策が必要になってきております。

現在迄行ってきた本会の財務の節減、海外派遣研修事業、支部活動の助成等の内容見直しなど、問題は山積みとなっており、もうすぐ創立70周年を迎えるこの組織を、会員相互の研鑽と情報交換の場として、また、会員皆が農友会の一員としてプライドを持ち農業経営のより一層の発展につながるように、役員一同図ってまいりたいと思います。

## 長野県活動報告

長野県国際農友会 会長  
中村 隆宣



わが県で研修中のタイ人研修生



がんばっています！

私たち人間も、自然の一部にすぎません。ですから、今までに出会ったことのないウイルスに侵されることも、それはいつかはあるでしょう。だけど、そのいつかが、まさか今とは、思いもしませんでした。令和元年度、令和2年度の長野県国際農友会の通常総会も2年連続、郵送での書面議決になってしまいました。毎年タイからの研修生の受入日に総会を行うことを恒例にしていましたが、それでもできませんでした。令和2年度に行った唯一の活動は予定より遅れて入国したタイの研修生の地方研修のみでした。私たちはともかく、せっかく日本に来ているのにただ農場で静かに研修だけしている彼らがかわいそう、せめて日本での思い出作りにと、コワゴワですがこの研修会を開催しました。研修生は喜んでくれました。

さて今年度の「関東甲信静越ブロック別国際化対応営農研究会」は長野県に当番が回ってききました。開催計画案を作成し、準備を進めています。昨年の東京での開

催はオンラインでの開催となりましたが、何とか今年度は長野県で実際に行いたいと願うばかりです。

以下がその計画内容です。

2022年1月28日(金)

会場：長野県JAビル

大会議室・13時

・講演(1)

「中国の農業における現状と将来」

王欣氏(島根大学講師、一般社団法人日新国際協会 代表理事)

・海外研修報告(帰国会員2名)

・講演(2)

「日本の農業で、世界を驚かす」

輸出から見えるもの」

河合秋人氏

(株)日本農業 国内事業部長



# 生産者兼広告塔として頑張っています

滋賀県国際農友会

中井 栄緒 (滋賀/H22 米コンビ)



中、私はいちじくを出荷している市場関係者と協力し、同市のいちじくの認知度を高

私が住んでいる滋賀県栗東市は県内でも有数のいちじくの産地です。しかしながら近年は生産者の高齢化に伴って生産量が減少傾向にあります。ありました、と過去形なのは、昨年の生産量がその前年と比較して増加に転じたからです。私は2011年3月に渡米し、そして帰国後、同市でいちじくを生産組合に加入していちじくの栽培を始めました。同組合はその頃から生産者が高齢となっており、その時点での平均年齢は約70歳でした。米国でいちじくを勉強してきたわけでもない素人の私はかなり歳の離れた先輩方からアドバイスをいただきながら、2014年から出荷を開始しました。平成の初期からのいちじくの産地であり、同市の特産物にもなっている作物ですが、私が加入して以降に新規就農者が出るわけでもなく、高齢の先輩がだんだんと辞めて縮小する産地を眺めていた数年はもの悲しく、そして不安を抱えた時期でした。

めてブランド化するイベントを企画しました。いちじくとクラシックコンサートをコラボさせたイベントで、2015年から開催して現在まで少しずつ規模を大きくしながら続けています。そして2018年の夏、私の運命を変えるキャラクターが誕生しました。その名は「いちじくの妖精マオマオ」です。マオマオは何を隠そう私がいちじくの形をした帽子を被っているだけです。至極安直なキャラクターですが、そのシンブルさが逆にウケたのか、少しずつ認知されてゆき、これまで新聞掲載とラジオ、そして県NHKのテレビ放送に出演することができました。その甲斐あってか、いちじくでの新規就農は私が就農した2013年以降ゼロだったものが2019年から現在まで3人が栽培を開始しました。若手の加入で生産組合の中でも活気が出はじめ、今年の夏は比較的安定した気候の助けもあって、これまで10年以上減少傾向だった生産量が増加に転じたのです。今年の生産量も昨年と比較して増加する見込みです。

私がいちじくの帽子を被って活動する時にイメージするのは、米国研修で一緒に働いた底抜けに明るいいコワーカー達の笑顔です。辛い肉体労働の最中でもお互いに野次を飛ばしながら、時には歌いながら仕事に励む姿を見てきました。仕事は全然丁寧ではなく手放しで褒められたものではなくありませんでしたが、彼らはどんな境遇にあったとしても楽しむことを忘れません。その心の置き方を学べたことが、私が米国研修で得た財産の一つです。どのような状況、情勢であっても楽しむことを忘れず、生産者兼、広告塔として頑張つてゆきたいと思っています。

## 中国・四国ブロック

### 再出発

島根県国際農業者交流協会 事務局長  
高井 誠 (島根/S63 米2)



県農大で啓発キャラバン

島根県のOB・OG会である島根県国際農業者交流協会(以下、当会といいます)は、20年近く実質的な活動が出来ておらず、休止状態でした。にもかかわらずこの数年、少なからぬ若者が海外農業研修へチャレンジしてくれていました。

三年前、タイミング良く本部から県内のキャラバンに同行できるチャンスを得たとき、これを機に当会の活動再開を目指す事となり、役員の若返りを行いました(といってもこのとき既に新役員はアラフィフです)。当会には名簿上は三桁近い会員数がありますが、名簿の更新がなされていないため、既に鬼籍に入られた先輩もおられました。また住所不明で多くの郵便物は返送されたりと、実際の会員数も掴めず、活動再開の案内もままならない状態です。

このように活動を再開したとは

いえ組織運営がままならない状態でしたので、本来島根県で開催する順番だった中国・四国ブロック研究会を先に鳥取県で開催していただくよう鳥取県国際農業者交流協会の川本会長にご無理をお願いいたしました。

はやく当会の立て直しをしなればとは思っていますが、島根県は東西に長く離島もあるため、もともと会員が一同に集まる事が難しい地理的な問題があります。なかなか効果的な活動再開に向けた周知方法や会員の意識向上を図る取り組みが出来なかった所にコロナの追い打ちもあり、活動再開をしたとは言わず、活動は役員が個人的に学校回りをしているのが現状です。

幸い、従来のメールやLINEに加えZoomなどのオンラインツールが発達・一般化してきた今だからこそ、新しい総会や会員間の意思疎通の環境や手段が整いつつあります。既に日本から羽ばたき異国の地で活躍している若者や、いままさに羽ばたこうとしている若者達、彼等の熱い思いを受け止める支援が出来るようなOB・OG会となるよう、会員相互の連携を深めながら当会の立て直しを行う所存です。当会の活動再開にむけ、会員・関係者の皆様の一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 派米研修生の壮行会を行いました

佐賀県国際農友会 会長

田中丸 土男（佐賀/S48米2）

去る5月11日に佐賀県国際農友会主催で県庁の会議室を借り、コロナ禍の中の壮行会を開催しました。当初は3名の派遣を予定していたのですが、コロナの影響で出発が6月にずれ込んでしまい1名が辞退したため2人だけ送り出すことになりました。残念な限りです。役員会の席でも今年の壮行会は

覚をもって元気に頑張ってくれ」と激励をし、本会から「しっかりと仕事をするように」との意味を込めてロゴ入りのウインドブレーカーを記念品として贈りました。佐賀新聞社から記者が取材に来てくれ、壮行会の模様は記事になり多くの人の目に留まることと



壮行会であいさつ

「2人の挑戦は頼もしい。得難い研さんを積んでほしい。」とエールが送られました。2人はそれぞれに決意表明を行い「しっかりと学んで成長した姿を皆さんに見せたい」「米国の大規模経営を学び将来は牧場経営をしたい」と、しっかりと抱負を語ってくれました。私からは「人間関係を大事にし、研修生としての自

なりました。農友会のメンバーにも届いたことと思います。その後、酒のない食事会でゆつくりと話をしました。帰国後は農友会のメンバーとしてキャラバン活動に参加する約束もしてくれました。壮行会は2人が佐賀県国際農友会のメンバーになるとを自覚する会になりました。



## この子たちの未来には…

国際農友会理事 森永大直（大分/S63米2）

「コロナのお陰で…」と云う口は慎むべきだが、世の中のデジタル化・IT化は急拡大し、我々の暮らしを一気に未来型社会へと推し進めてくれた。毎日の暮らしで接する機器には、新しい機能が次々と備えられ、働き方やコミュニケーションの取り方に至っては我々の日常が一変されてしまった。

さらには「学び」の現場にも、色々な影響を懸念する議論があつたにせよ、もしもの時のWeb授業の必要性が切り札となり、コロナのお陰で全児童学生にタブレットを配布する方向で新学期は始まった。確かに子供達の興味と適応力は高く、操作においては大人の我々の方がかなり劣ることもある。国の教育指針そのものも大きく変化しており「グローバル時代の情報収集活用能力・コミュニケーション能力の醸成」を旗印に、「国民総IT化」爆進中である。

しかしこの「未来感」を素直に受け止められないのは自分だけか？もともと一年前までスマホに替えるのを渋っていたのは、個人的にはその必要性を

感じなかったからで、曲りなりにも使いこなしている今でも「これは必要以上の物」と感じ、「自己成長の為に必要な機能も多過ぎる」と思っている。ある程度以上の便利は、却って人自身を退化させる。あるストレスを克服する中でこそ創意工夫と前進の気概は生まれる！そんな良悪益不益を知っているのは我々大人で、この環境の中に否応無しに放り込まれたのが真つ白な現代っ子達である。

野山を駆け、友と一緒に時の経つのも忘れて遊び廻り、自然の機微に魅了され、大人から怒鳴られながら過ごした日々、その中で培われて行った人格形成に必要な様々な事々。どんな便利な道具もこれらを代替出来はしない！もし可能なら、この野山田畑農村社会を守りつつ、この子たちの未来とその社会の為に、我々大人は「何が豊かで便利なのか」の自覚を持って、彼等とテクノロジーを育んで行つてあげるべきだろう。





# 平成に生まれた COWBOY

上江洲 聖也  
(沖縄/H24 米コンビ)



現在、私はアंकロ種（黒毛和種とブラックアンガスの掛け合わせ牛）の生産・加工・販売の事業をアメリカ西海岸を中心にこなしている。北カリフォルニア州コニングにあるマサミキヤトルランチという会社の社員として、生産から販売までの全てに携わっています。

私は沖縄県うるま市の出身です。両親ともに農業は無縁の仕事をしていましたが、幼い頃から地元で人気のある伝統文化の闘牛が好きで、そこから牛という、ロマンに満ち溢れた動物にのめり込みました。高校は普通高校に通い野球部に所属していましたが、暇さえあれば部活を抜け出して闘牛観戦に行っていました。私にとっては野球より闘牛の方が面白かった。皆さんも、沖縄に遊びに行く際には闘牛観戦を試みてくださいね。

高校卒業後は沖縄県立農業大学校に進学し、2年間肉牛コースで牛の基礎を学びました。在学中に海外研修プログラムに出会い、アメリカに行くことを決めました。

研修先は現在働いているマサミキヤトルランチでした。研修中は楽しいことばかりではなく、言葉の壁や仕事のできなさに落ち込み、苦しいこともありましたが、なんくるないさ精神でどうにか楽しく過ごせ

ました。

研修時代の一番の思い出は、週1回もらえる休みを利用して地元にある精肉屋やスーパー、他の農場や牧場へ突撃訪問し色々勉強させて頂いたことです。中でも堆肥屋の社長、ピートとの出会いは私の人生を変える1つの出来事でした。彼は一代で堆肥会社の事業を成功させた人物ですが、仕事や生活のことにアドバイスをくれました。彼がいつも言っていたことは、『Learn by doing、やりたい事や知りたい事があれば躊躇なくそれを行動に移せ、聞きに行け』というシンプルなことでした。あれから7年という月日が流れましたが、今でも家族ぐるみでお付き合いをさせて頂き、常にその言葉を軸に仕事にも精を出しています。研修では英語だけではなく、人として大事なことを得ることができました。

最後に『自分の夢』を書かせてください。幼い頃から闘牛（牛）が好きで、牛が居る世界で生きていきたいと願い今まで生きてきました。私の夢は闘牛で沖縄全島一を取る事です！が、今の夢は、育てている



実際に肉屋をまわってみる



肉のプロから多くを学べる

マサミビーフがサンフランシスコ1美味しい牛肉と呼ばれることです！現在もサンフランシスコにあるミシュランレストランや高級精肉屋さんに取り扱って頂いています。まだまだ上を目指していきたいと思っています。そして近い将来、自分達が育てたマサミビーフをこの研修プログラムを支えてきたOB・OGの皆様にぜひ食べて欲しいです！コロナ禍で大変な時期ではありますが人生1度きり、やりたい事して楽しんでいきましょう。

# 希

望も決断も数々の体験から生まれる。同期の

斎藤信夫君は、米国3年研修生を修了し、帰国後に建設省産業開発青年隊として川俣ダムで建設に携わってからブラジルに飛んだ。そして25ヘクタールの原生林を開墾し農園を拓きハーブ栽培で収益を得ていたが、4年後に病気が発生して枯れてしまった。そこで、農地と家売り払い、世界一のイグアスの滝に希望を求めて引越、その三ツ星ホテルに入社した。ここには世界中から観光客が集まってくる。斎藤は日本語、英語、スペイン語、そしてポルトガル語を駆使して働いた。歳月は流れ、退職後に自宅に電話を引いて机一つでIGUASURYOKOU社を立ち上げたのだ。そして今では大型観光バス4台を回して会社を運営している。そんな彼から2011年の東日本震災の時に電話があった。俺を案じてくれていたのだ。その際にブラジル旅行へ招待してくれたのでその年末にブラジルへ飛ぶことにした。斎藤の家と会社は、街の郊外にL字形の2階建てホステル・プール付きの新築だった。その夜は総

## 勇気ある二人の友

保坂 治良（東京 /S38 米3）

数20人余の豪勢なカクテルパーティーの歓待を受けた。名も知らぬ料理もたくさんあり楽しかった。次の日の朝、お神酒をあじわい日本の紅白歌合戦観賞した後、イグアス滝の観光。川の向こう岸はアルゼンチンだという。古の牧師の寺院や館も見学した。日帰りだったが、車中では若い頃の思い出を語り尽くした。時速170キロの車の中で。あれから日本で何度か桜が

咲いたが、ある時彼からメールが届いた。添えられていたのは桜の写真だ。ソメイヨシノと台湾桜それぞれ30本で合計60本。面白いもので20本ほどが日本と同じく3月に咲いたらしい。ブラジルの春、9月にもまた咲くだろう。

### 秋

葉昌利君（S55米2）はBBCで農業コー

ス・養鶏科の単位を取り、帰国後は専門学校を出て旅行業取扱管理者の資格を取得した。そしてオレゴン旅行社の社員募集を見つけ、「アメリカに戻るにはこれしかない」と応募した。しかし、永住権の手続きは会社では保証でき

ないので自分でしろと言うではないか。なんだかんだと苦労したが、ポートランドの有名な移民弁護士の助けを得て永住権を獲得することができた。しかし、オレゴンに勤務する予定で入社したにもかかわらず、支店があるデンバーに飛ばされ誰も知り合いのいない土地での勤務になったのであった。しかし秋葉君は一年後、オレゴンで行われた日本人ピアニストの大きなイベントで旅行社勤務の女性と出逢い結婚するのである。順風満帆で秋葉君は充実していたように見える。奥さんも通訳・コンダクターとして自宅で音楽教室を運営していた。

ある時、秋葉君からクリスマス・カードをもらった。白い大きな家の前で、左から息子、長女、次女、奥さん、そして後ろに父親となった彼が座っている。家族全員、太陽が輝く下で弾ける笑顔を見せていた。

その昔、メキシコ大使館に私がまだ働いていた頃やって来て、光る瞳で「僕は、アメリカへ行きます」と言った秋葉君を思い出した。



イグアスの滝の前で



## 役員の改選

6月、書面決議により国際農友会役員の改選が行われました。

これにより以下の方々が選出されました。会長、副会長は留任となりました。また、今回は初めて二名の女性理事が誕生しました。これから二年間どうぞよろしく願います。また、由利稔幸理事が退任されました。大変お世話になりました。

### 【ブロック理事】

□北海道・東北ブロック

星 智宏（国際農友会会長）

□関東甲信静越ブロック

藤森 英明（国際農友会副会長）

□東海近畿北陸3県ブロック

山田 豊

□中国・四国ブロック

檜垣 真城（国際農友会副会長）

□九州ブロック

五嶋 義行

### 【中央理事】

森永大直、高見澤宜男、椎橋美孝、木村智子、

藤田春恵

顧問も選任されて、これまで同様の方にお願ひさせて頂くこととなりました。

本田親盈、井上源一、本間惇

## 国際農友会のホームページができました！

国際農友会の活動をご紹介するのみならず、会員の皆様と様々な形でつながっていく情報交流サイトに成長させていきたいと思っています。

ぜひご覧いただき、ご意見ご感想をお寄せください。



サイトへはこちらから

## アグトレ・サロン

海外農業研修に参加したことが人生の転機となっている方も多いのではないのでしょうか。稀有な経験がご自身にもたらしたことやそこから発展したアイデアで事業を展開したり新しいつながりが生まれたりしている、その価値を広く世の中で共有する機会というものが不足しています。そこで、YouTube Liveを利用して、毎回数名のOB・OGをゲストに招き、海外農業研修とは自分にとってどんなものだったか、そして今の自分は何をしているのかを語り合う場を設けました。どなたでもご視聴いただけますし、今度は出演したいという方、ぜひお問合せ下さい！ゆくゆくはご自身の商品を紹介したり、ビジネスにつながるような取り組みに行けたらと考えています。

## 令和3年度 全国都道府県組織臨時会長会議の開催

6月22日（火）に、現在の海外農業研修の状況を共有するとともに、海外農業研修参加者への農林水産省の新しい補助金等の紹介を目的としたオンラインの会合を開催しました。

### ・帰国報告

平成三十年度アメリカコース

村上 優太さん、

2019年度スイスコース

一丸 恭子さん

### ・海外農業研修の状況

・新しい補助金制度について

・素敵な経営者たちⅡの作成のお願い



## 会員の動向（敬称略、順不同）

### ご逝去

|          |                   |         |                    |
|----------|-------------------|---------|--------------------|
| 平成26年    | 吉松 一郎(山口/S34/米3)  | 令和2年12月 | 鳥越 義勝(岩手/S35/米3)   |
| 平成28年    | 山口 良輔(長崎/S30/全米)  | 令和3年1月  | 高戸 甚右衛門(福井/S28/米1) |
| 平成29年12月 | 佐原 孝志(山口/S38/米3)  | 令和3年1月  | 深津 明(米国/S40/米2)    |
| 令和2年     | 市川 光政(岡山/S37/ドイツ) | 令和3年2月  | 堀内 久貴(神奈川/S41/米2)  |
| 令和2年5月   | 小島 正雄(愛知/S27/米1)  | 年月不明    | 中嶋 啓(愛知/S63/オランダ)  |
| 令和2年10月  | 児玉 光雄(広島/S37/スイス) | 令和3年2月  | 野付 正樹(鹿児島/H6/米2)   |
| 令和2年12月  | 黒木 美登(宮崎/S28/米1)  | 令和3年1月  | 吉田 民雄(群馬県/S53/米2)  |
| 令和2年12月  | 甲斐田 数年(大分/S30/米1) | 令和3年4月  | 重野 安正(大分/S40/米1)   |
| 令和2年12月  | 佐久間 勇(東京/S32/米3)  | 令和3年7月  | 森田 孝二郎(群馬/S34/米1)  |

### 叙勲・受賞

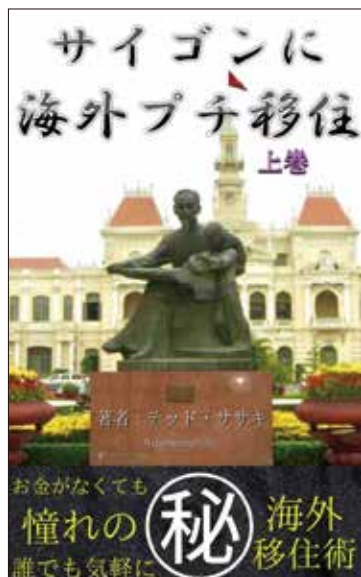
平成21年秋の叙勲 旭日小綬章 山崎 忠弥（新潟/S31/全米）

### 結婚

令和2年9月 梅谷 三蔵（愛知/H30/オーストラリア）&  
守屋 周子（千葉/H30/オーストラリア、新姓：梅谷）  
令和3年2月 磯貝 悠紀（千葉/H27/オランダ、新姓：須藤）

## 出版物のご紹介

テッド・ササキこと佐々木忠弘 OB（大阪/S53/米2）がベトナムに関連する本を出版されました。



書籍：サイゴンに海外プチ移住（上・中・下）Kindle版  
著者：佐々木 忠弘  
出版元：アマゾン・インターナショナル

◎ Amazon より

（前略）著者がはじめて、ベトナムを訪れたのは1996年2月である。ホーチミン（旧サイゴン）の国際空港で、飛行機から機外に出て、タラップを降り、空港ビルに向かう送迎バスに歩いて行ったとき、北半球の2月だというのに、生暖かい風が吹き、南国特有のねっとりした空気が纏わりついて来たことを昨日のこのように思い出す。その後、1997年10月から翌年5月まで、首都ハノイに滞在する機会を得たのにはじまり、1998年5月から翌年10月まで、ホーチミン（サイゴン）に滞在した。こうして、2020年3月まで、足掛け25年、累計13年以上におよびベトナムに居住する機会を得た。（中略）本書は、ホーチミン（旧サイゴン）への超短期（プチ）の移住を薦める形式で執筆されているが、ベトナム人気質、トラブルへの対処法、サバイバル・ベトナム語会話など、著者の実体験から得た知見や生活術満載の構成となっており、ベトナム社会やベトナム人全体への理解も進むこと請け合いである。

### 編集後記

今から2年前の今ごろ、オリンピックのチケットを購入するしないですいぶん盛り上がったのをふと思い出した。2年後、今度はするのしないので盛り上がっている。順序が逆じゃないかと思いつつ、時間だけは止まらない。誰かのせいにして諦めたら、後悔すると思う。

